

2022年04月05日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【米国のインフレ指標に注目】

先週末(2022年4月1日金曜日)に、恒例の米国雇用統計の発表があった。

3月失業率の事前予想が3.7%に対して、発表された数値は3.6%。

事前予想よりもよい結果だった。

3月の非農業部門雇用者数(NFP)の事前予想が+49.0万人に対して、発表された数値は+43.1万人。

こちらは事前予想よりも悪い内容だった。

ただし、前回(2月)の非農業部門雇用者数(NFP)が、当初発表された+67.8万人から+75.0万人に上方修正された。

平均時給は、ほとんど事前予想通りと評価して良い内容。

総じて見れば、ほぼ事前予想通りと判断して良い、と考えます。

米国雇用統計発表直後のマーケット(外国為替市場)は、ほとんど反応が無い状況。

+++++

今回の米国雇用統計の内容は、米国経済が好調であることを示している、と言って良い。

失業率が、3%台ということは、ほとんど完全雇用状態を示している、と考えます。

コロナウイルス問題で、落ち込んだ米国経済は、すでに回復しており、現時点では、むしろインフレに対応するべき、とFRBは判断しています。

今回(4月1日)の米国雇用統計は、それを確認する内容だった、と考えます。

+++++

ただし、今回(4月1日)の米国雇用統計の内容をもって、今後の利上げが、従来の0.25%ではなく、0.50%になるとは、言い切れない、と考えます。

かといって、米国の利上げのペースが、従来通りの0.25%ずつになる、とも言いかねます。

米国雇用統計だけではなく、その他の経済指標も見て、総合的に判断する必要がある、と考えます。

米国のインフレ指標を見ると、FRBが、今後の利上げペースを加速する可能性は十分に大きい、と考えます。

換言すれば、次回のFOMCで、0.50%の利上げになる可能性は十分にある、と考えます。

次回のFOMCの日程は、2022年5月3日、4日なので、現時点から、まだ1か月も時間があります。

米国の経済指標、特に、インフレ指標と呼ばれる経済指標に注目する必要がある、と考えます。

++++  
++++

(2022年04月05日東京時間14:30記述)